

令和8年産

稲作情報 No. 1 津南版

令和8年3月4日発行

十日町地域農業振興協議会

十日町市、津南町、JA 魚沼、

NOSAI 新潟魚沼支所、

十日町農業普及指導センター

LINE で情報発信中！

・水稻栽培情報

・消雪情報など

友達登録は
こちらから



健苗育成と適期移植で良質茎を確保しましょう！

- 健苗を適期に移植できるように、田植えが長期にわたる場合は播種を複数回に分けましょう！
- 今年のコシヒカリの種子の休眠は「深い」と想定されており、低温で浸種すると発芽不良を招きます。浸種水温は12℃以上を確保し、浸種期間は積算水温120℃（水温×浸種日数）を目安としましょう！
- 緑化期・硬化期はこまめな温度管理を徹底し、ヤケ苗・徒長苗を防ぎましょう！

1 育苗計画

- 高温登熟による品質低下を避けるため、コシヒカリは5月10日以降に移植日を設定しましょう！
- 適期収穫ができるよう、経営面積に応じて、播種時期を分散し、移植時期の幅を広げましょう！
- 近年は高温で苗の生育が早まる傾向があります。健苗を移植するため、表1のように移植期から逆算して、浸種・播種の計画を立てましょう！

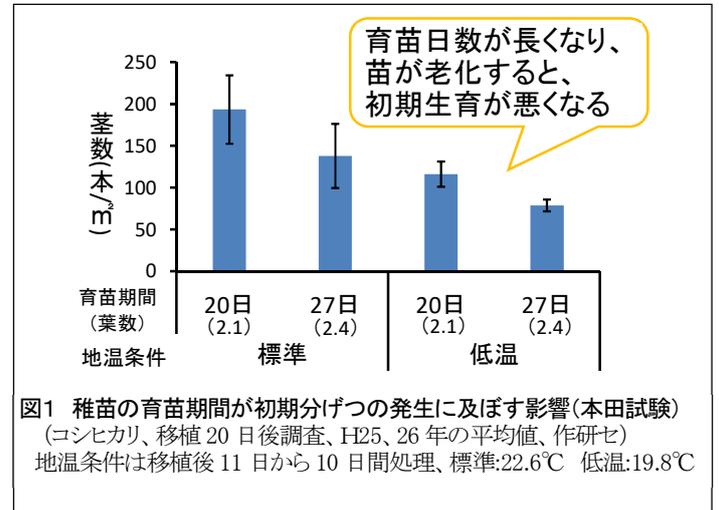


表1 適正な育苗スケジュールのイメージ

○:播種日、△:移植日、□:出穂期

育苗様式	4月			5月			8月
	中旬	下旬		中旬	下旬		
中苗 加温露地 プール	浸種	○	△	1葉期	2葉期	3葉期以降	□
	4/10	4/20	5/20				8/7
	浸種	○	△	1葉期	2葉期	3葉期以降	□
4/15	4/25	5/25				8/10	
浸種	○	△	1葉期	2葉期	3葉期以降	□	
4/20	4/30	5/30				8/13	

注 標高400~500mを想定

出穂期を分散させるには、浸種から時期をずらして播種をすることが効果的です。

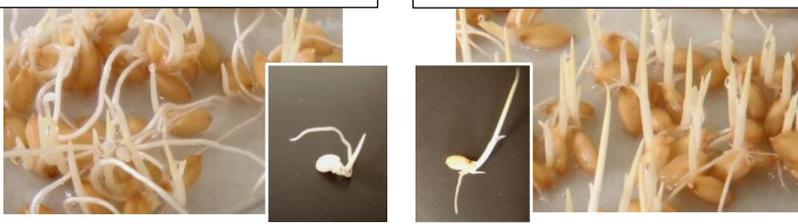


2 浸種から播種までの作業のポイント



昨年、暦に合わせて播種した人は、消雪遅れにより田植えが遅れ、育苗期間が長くなってしまい、老化苗が多く発生しました。上記「適正な育苗スケジュールのイメージ」を参考に田植えまでの期間を想定して、育苗計画を立てましょう。

種子消毒	<p>種子伝染性病害などの発生を防止するため、種子消毒を必ず行いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学農薬による種子消毒は効果が安定します。温湯消毒の単独処理では、防除効果が十分に得られない場合があるため、<u>温湯消毒+微生物農薬(催芽時浸漬)の体系処理</u>を実施しましょう。 ・ 細菌性病害(褐条病やもみ枯細菌病、苗立枯細菌病)に対しては、種子消毒だけでは効果が安定しないため、カスミン粒剤・液剤との体系防除を実施しましょう。
------	---

<p>浸種</p>	<p>適切な水温・期間で浸種し、発芽に必要な水分を種子に吸収させて、発芽揃いを良くしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水量は種子容量の2倍以上（種子粃1kgに対して3.5ℓ以上）を用意しましょう。 ・令和7年産のコシヒカリBL種子の休眠は「深い」と推定されるため、水温は12℃を保ち、積算温度120℃を終了の目安としましょう。 <p>※必ず水温計を設置し、初期水温を確認しましょう。</p> <p>※浸種開始時の水温が10℃未満だと、著しい発芽不良（発芽揃いが悪くなる）を招きます。</p> <p>水温15℃以上だと、積算水温に達する前に発芽し、出芽ムラが生じます。</p> <p>※浸種を早く始めすぎて浸種期間が長くなると、正常に発芽しない恐れがあります。</p> <p>※温湯消毒種子は発芽が早まりやすいため、浸種中の種子の状態をこまめに確認しましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 低温で浸種（5℃・22日間） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 適正温度で浸種（13℃・8日間） </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; text-align: center;"> 低温浸種に比べて 発芽が揃ってるね！ </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <p>図 浸種別のコシヒカリ 播種7日後の様子（佐渡農業技術センター2020年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の更新は、種子消毒の方法別に以下により行いましょう。 温湯消毒：2日に1回程度（雑菌が繁殖しやすいため） 浸種期間に薬剤消毒：前半4日間は水を更新せず、その後必ず2～3回水を更新 <p>※浸種後半は、種子の呼吸が活発になるため、毎日水を更新しましょう。</p>												
<p>催芽</p>	<p>30℃で1～2日を目安に、80%以上の粃がハトムネ状態になったら催芽を終了しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30℃を超えると細菌性病害、30℃を下回るとばか苗病の発病を助長します。 ・粃袋の外側だけでなく、中心部も確認しましょう <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; text-align: center;"> <div style="font-size: 2em;">○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 適正なハトムネ状態 （粃が膨らみ、芽が1mm 程度確認できる） </div> <div style="font-size: 2em;">✕</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 伸ばしすぎ！ （播種時に芽が傷つ きます） </div> </div>												
<p>はしゅ 播種</p>	<p>適正な播種量で健苗を育成しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・播種量が多すぎると苗は細く、徒長しやすくなるので、適正な播種量としましょう。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">育苗様式</th> <th colspan="2" style="width: 70%;">1箱当たり播種量（g）</th> <th style="width: 20%;">10a 当たり必要箱数</th> </tr> <tr> <td></td> <th style="width: 30%;">乾粃</th> <th style="width: 40%;">（催芽粃）</th> <th style="width: 30%;">（50株/坪）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中苗</td> <td>80～100</td> <td>（100～125）</td> <td>20～25</td> </tr> </tbody> </table>	育苗様式	1箱当たり播種量（g）		10a 当たり必要箱数		乾粃	（催芽粃）	（50株/坪）	中苗	80～100	（100～125）	20～25
育苗様式	1箱当たり播種量（g）		10a 当たり必要箱数										
	乾粃	（催芽粃）	（50株/坪）										
中苗	80～100	（100～125）	20～25										

【参考】育苗期に発生しやすい障害・病害

障害	原因	主な対策
出芽不良	①浸種時の低温や積算温度不足 ②催芽時の温度ムラ ③出芽時の過高温や過湿	①出芽器内の温度をこまめに確認 ②80%以上の粃をハトムネ状態にする。 ③床土の透水性を改善
ムレ苗	①床土のpHが高い（アルカリ性）、透水性が悪い ②厚播き ③急激な温度変化（8℃以下の低温とその後の高温）	①症状が悪化する前に早めの移植 ②床土のpHや透水性に留意する。 ③厚まきや徒長を防止する。 ④急激な温度変化を避け、夜温を8℃以下にしない。
ばか苗病	①種子伝染 ②病原菌に汚染された種子予措器材の使用 ③罹病植物残渣（粃殻、米ぬか等）を含む粉じんの付着	①化学農薬による種子消毒または 温湯消毒＋生物農薬の体系処理 ②器材の消毒 ③種子を稲わら、粃殻等と同じ場所で保管しない。

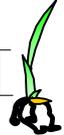
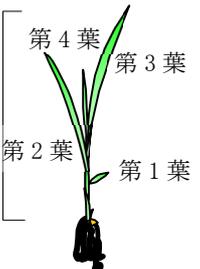
3 育苗期間の管理 (中苗・加温出芽・露地プール育苗)

(1) 育苗場所の準備

- 温度変化の少ない場所を選定し、強風が当たりやすい場合は防風ネット等で風対策を行いましょ。
- プールへのかん水時に水位差が少なくなるよう、置き床を均平にしましょう(許容高低差:2cm以下)。

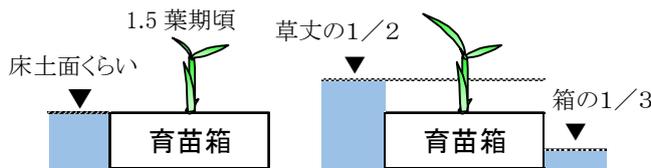
(2) 育苗期間の管理 ~移植前の弁当肥で根の改善を高めよう~

ア 温度・水管理

期間	温度	温度管理・被覆・水管理	終了目安
出芽期 1.5日以内	30℃	○播種時に十分かん水 ○緑化に移す際、温度の急変を避ける。 ➔白化苗防止	出芽長 0.5cm未満 
1葉期 10日間程度	昼 20~25℃ 夜 15~25℃	○10℃以下にしない。 ➔苗の伸長停止防止 ○基本はワリフとラブシートの2重被覆 ○出芽や緑化期間を長くしない。 ➔徒長苗防止 ○午前中の早い時間帯に1日1回かん水 ※プールへの湛水は硬化期(1.5葉期頃)になるまで行わない ○プール内や被覆資材上に雨水が停滞しないように排水 (過湿によって生育ムラが生じたり、晴天時にレンズ効果で温度上昇を招くため)	第1葉鞘長 2.5~3.0cm  ※第1葉鞘長を短く抑え、第2・3葉の伸長を抑制する。
2葉期 10日間程度	昼 15~20℃	○硬化期(1.5葉期頃)からプール管理へ移行(下記参照) ○8℃以下、20℃以上にしない。 ➔ムレ苗、苗ヤケ防止	草丈 15cm 3.5葉  中苗 (3.5葉)
3葉期 10日間程度	夜 10~15℃	○基本は被覆資材を除覆 ※降霜が予想される場合は被覆 ○3葉期から徐々に外気に慣らす。	

プール管理のイメージ

▼: 水位



○1.5葉期頃、プール内の一番低い位置にある育苗箱の床土面くらいまで湛水

○草丈の1/2程度まで湛水し、浅い部分で箱の1/3以下まで減水したら再度湛水
○プールへの湛水は早朝に行い、日中に水温上昇を図る(夕方×)。
○低温時は一時的に水位を上げ、気温が上がったら通常の水位に戻す。

○追肥時は床土面以上の湛水状態にする。
○施用後2日間は落水しない。
○液肥の場合は、肥料ラベルの注意事項をよく読んで使用しましょう。

○移植2日前頃に落水し、苗箱を軽くする。

イ 追肥(弁当肥)

表 基肥で窒素 0.5g/箱を施用した場合

	追肥時期	追肥量(成分 g/箱)
1回目	1.5~2.0 葉期	窒素 1.0
2回目	移植4~5日前	窒素 1.0~2.0

基肥窒素量に応じ、追肥回数と量を加減しましょう!

